

〇年〇組オリジナルルールを考えよう

～みんなが楽しめるバスケットボール～

小学校・4～6年生

I プログラムについて

1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「公平・公正」）

＝【人権感覚育成のための視点】

ボール運動が得意な児童だけが活躍するのではなく、誰でも活躍の機会を得られるよう、皆で楽しめるオリジナルルールを考え、話し合いによって課題を解決しようとする公平・公正な態度を養う。

2 関連する教科等について

○体育

内容 E ゲーム ア ゴール型ゲーム ※4年生

E ボール運動 ア ゴール型 ※5・6年生

3 人権教育上の視点

- (1) 誰もが活躍できるように個人差を考慮するなど、公平・公正を尊重しようとする心情や態度を身に付けようとする。（価値・態度）
- (2) 集団で決定したルールに則り、一方に偏ることなく、公平に実践することができる。（技能）

II アクティビティーについて

1 概要

○活動1

全員にはシュートチャンスが回らない状況を、公平・公正の視点から見直し、みんなでバスケットボールのシュートを楽しむためには、どんなルールにしたらよいか個人で考える。

○活動2

一人一人の考えをもとに、グループでブレインストーミングを行ってから、クラス全体で考えを共有し、バスケットボールのオリジナルルールを決める。

○活動3

クラスのオリジナルルールでバスケットボールの試合を行い、全員にシュートチャンスがあったかを振り返る。

2 準備するもの

- 個人で考えたルールを記入する用紙（様式は自由。図でも文章でも書けるようなもの）
- ブレインストーミングを行う際用の用紙（A3判程度の用紙）

3 アクティビティーの進め方

- 活動1 「ルールの検討」
 - ① 全員がシュートチャンスを得られるようなルールを、個人で考える。考えられない場合は、ルールの参考例から選ぶ。
- 活動2 「オリジナルルール決定のための話し合い」
 - ① 自分の考えをもとにグループで意見交換をし、オリジナルルールに採用したい考えをまとめる。
 - ② グループごとに考えを発表する。
 - ③ クラス全体で採用するオリジナルルールを決める。
- 活動3 「試合と振り返り」
 - ① シュートチャンスを全員に回せるようなオリジナルルールに従い、試合をする。
 - ② みんなにシュートチャンスが回り、楽しめるオリジナルルールになっていたか、オリジナルルールに従って試合ができたかを振り返り、次時以降に生かす。

4 アクティビティーを指導する際のポイント

- 全員がシュートチャンスを得ることを目指すが、実際にシュートチャンスが回ったかどうかの結果だけでなく、ルールを決める話し合いに一人一人が参加し、公平に決める過程も大切に作る。
- 友達とアイデアを組み合わせたり、加えたり、少し変えたりしながら、たくさんのアイデアが出るような雰囲気を大切にし、チームワークをよくする活動の一つとして取り組むように助言する。
- ブレインストーミングは、様々な意見を出し合う中で、目標を実現させる活動のため、他の人の意見を批判しないよう指導する。
- 例えば、バスケットボールの基本のルールが定着した後や、試合でシュートする児童が固定化した際に実践すると効果的である。

Ⅲ 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T) 児童の反応例 (C)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)
10分	1 準備運動 2 慣れの運動	・本時は、バスケットボールの基本のルールが定着した後の段階で実施する。
27分	3 前時の振り返り T バスケットボールの試合で一番楽しいのは、どういう時ですか。 C シュートが決まった時。 C チームの友達と協力できた時。 T みんなが楽しくバスケットボールをするためにはどうしたらよいでしょう。 C 全員にシュートチャンスがあるといい。 C バスケットボールが得意でない子も楽しめるルールがあるといい。 4 ルールの検討 T 今日は、全員にシュートチャンスがあるようにする、オリジナルルールを考えます。 T これまでの授業を思い出して、個人で考えましょう。考えがまとまったら、グループで意見を交換し、発表してもらいます。 C 全員がシュートを打てるように、ルールに〇〇を加えたほうがいいと思う。 C 〇〇さんの意見と□□さんの意見を合わせると、誰にでもシュートチャンスがあると思う。 5 オリジナルルールの決定 T グループで考えた、全員にシュートチャンスがあるルールを発表してください。 C 全員にシュートチャンスがあるようにするためには……。	◎全員にシュートチャンスが回り、ゴールが決まる楽しさを共有できるようなルールの必要性を理解するため、現段階でのシュート・ゴール経験者の人数を把握し、個人差があることを確認する。 (価値・態度) ・ルールが思いつかない児童には、これまでのボール運動でのルールを提示するなど、多様な考え方ができるように支援する。 ・全員の意見を認めていく雰囲気大切にしつつ、ルールとして採用したいものを考えさせる。 ・グループやクラス全体で、少し変えたり、加えたりして、よりよいルールができるように意見を自由に言わせていく。

	<p>C ○グループの意見は得意でない人にもシュートチャンスがあると思う。</p> <p>T どの意見も、誰にでもシュートチャンスがあるよう、十分に考えられていますね。</p> <p>6 オリジナルルールを取り入れた試合の実施</p> <p>T みなさんの意見をまとめて決定したオリジナルルールで、実際に試合をしましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループからの意見のよさを称賛したり、複数の意見の共通点を示したりして、誰にでも活躍できる場があることを強調する。 ・オリジナルルールの決定に当たっては、現実的なものを採用するよう児童に促す。 <p>◎クラス全体で、新しいルールを守り、楽しく試合ができるように、ルールを提示しておく。(技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルルールに従い、ボールをいろいろな人に回そうとしている児童や、友達のシュートを褒めたり喜んだりしている児童を称賛し、試合の雰囲気を盛り上げる。
<p>8分</p>	<p>7 本時の振り返り</p> <p>T 新しいルールになって今日初めてシュートできた人、ゴールが決まった人はいますか。ルールに従い、楽しく試合ができましたか。改善点はありますか。</p> <p>8 整理運動・片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初シュート・初ゴールできた児童や、雰囲気を盛り上げた児童、ルールに従って全員のチームメイトがシュートチャンスに恵まれるよう試合ができたことを、全体で称賛する。 ・実際にやってみて分かることもあるため、新しいルールに適宜改善を加え、よりよい試合となるよう工夫していくことを伝える。

IV 資料

(1) ルールの参考例

- ☆試合ごとに、初めてシュートが決まった児童の得点を○点とする。
- ☆試合ごとに全員シュートが決まったら、そのチームにボーナス得点を与える。
- ☆ゴールした児童は、シュートしてない児童がゴールできるように手助けしたり、パスを多く回したりする。